

メンテナンスタイプ別複合フローリングにおける新築引渡し美装作業標準書

株式会社 **リンレイ**
 東京都中央区豊海町 2-24
 床材情報研究所

【メンテナンスタイプ】 … C-01NS

【フローリングの特性】 … V溝(飾り目地), 接合部に対する影響性は極めて少ない

【使用可能ワックス】 …… ハイテックフローリングコート

近年、特殊UV塗装されたフローリングの普及やUV塗装の高耐久化・高機能化に伴い、樹脂ワックスの密着不良が非常に増えるようになりました。特に水の影響により極端に密着性(耐水密着性)の悪化するケースが極めて多く、ワックス皮膜の白化や剥がれのトラブルが多発しております。



密着不良



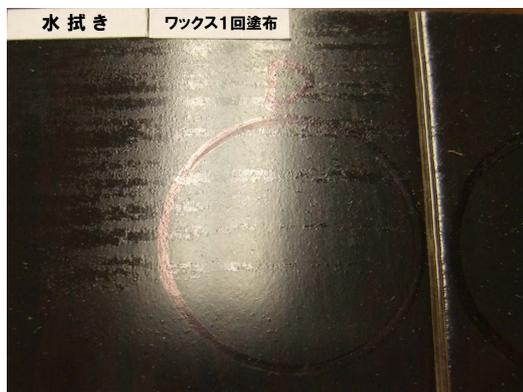
水によるワックスの白化



水によるワックスの剥がれ

引き渡し美装時において、一般的には水拭き・ワックス塗布を行うケースが多いようですが、水拭きの場合には床材表面に付着した皮脂・油脂系の汚れやUV塗装からの移行成分などを除去しきれないため、ワックスのハジキや密着不良を起こす可能性が極めて高くなります。

弊社では、ワックス塗布に際しましては、必ず中性または弱アルカリ性(床材の表面塗装・構造によっては使用不可としていますが、詳細は作業項目中で記載します)洗剤を使用して油脂系の汚れ(ヒトの皮脂や内装作業時に付着した油脂分など)を確実に除去した上で、洗剤分を除去するための水拭きを行ってからワックスを塗布していただくようお願いしています。



水拭きでワックス塗布
 (ハジキによる仕上がり不良が発生)



洗剤拭きでワックス塗布
 (ハジキは見られず仕上がり良好)

本床材においては、通常の床材メーカー推奨のワックス『ハイテックフローリングコート』以外のワックスを用いた場合の密着確保は極めて困難となりますので、必ず『ハイテックフローリングコート』をご使用の上、引き渡し美装作業を行ってくださるようお願いいたします。

新築引渡し美装作業手順

注意！

ワックスの密着確保が困難なタイプであるため、使用するワックスは必ず『ハイテクフローリングコート』をご使用下さい。

このタイプの床は、通常の作業においては、床板中央に彫られた飾り溝(飾り目地)の部分や接合部において、フクレが生じる可能性は低いことが確認されています。

①床表面や目地部分に入った粗ゴミやホコリ、木屑などを掃除機で除塵します。

目地部分に入り込んだ汚れを除去しきれない場合には、竹串や竹へらなどを用いて掻き出しながら吸塵するなどしてください。

※化学雑巾または化学モップなどは絶対に使用しないでください!!

②20倍に希釈した『プロインパクト中性』を浸み込ませ、やや固く絞ったモップで洗剤拭きを丁寧に行いながら、床表面の汚れや油脂分を確実に取り除きます。

※広い面積を一度に作業せず、約2畳分ずつの小面積に区切って「洗剤拭き→水拭き→水拭き」を行う様にしてください。

③床面に残った洗剤分を、やや固く絞ったモップで水拭きします。

④モップを変えて、固く絞ったモップで水拭きします。

※水拭きを確実に行わなければ、ワックスの密着に大きな影響を及ぼします。

⑤送風機を使用するなどして、床面を完全に乾燥させます。

※通常30分以上、雨天時や冬期中は45分以上が必要です。

※冬期中、エアコンなどによる暖房が利用できる場合には、予め2.5℃程度に

設定し、室内を暖めておきます。設定は暖房にします。ドライ設定にすると室内が暖まらず、乾燥も遅くなります。

※夏期は床面の温度が高くなっているため、塗りムラや仕上がりが不良の原因になりやすい状態になっています。

ワックスを塗るまでの間、雨戸を閉めたり、窓をカーテンで覆うなどの遮光措置を取った上で、室内の空気を入れ換える為の送風換気を行って、室温を下げた上でワックスを塗布するようにして下さい。

室内気温30℃程度を超える環境では、モップの重なり目が出やすくなるため、必ず室温を低下させてから塗布を行って下さい。どうしても塗る必要がある場合には、モップの重なり目となる部分が乾かない状態で塗れる様に迅速に塗布するか、モップの重なり目を極力作らないなどに注意して塗布を行って下さい。

ワックスを塗る際に、巾木部分にワックスが付かない様にするために養生を行う場合には、布テープ型の養生シートは使用せず、紙テープ型の低粘着性養生シートを巾木部分に貼り付けてください。布テープを使用すると、剥がす際に巾木を傷めたり、剥離させる恐れがあります。白木の敷居を養生する際も、巾木と同様に紙テープ型の低粘着性養生シートを使用してください。

⑥『ハイテクフローリングコート』を必要な量だけ専用トレイに入れます。

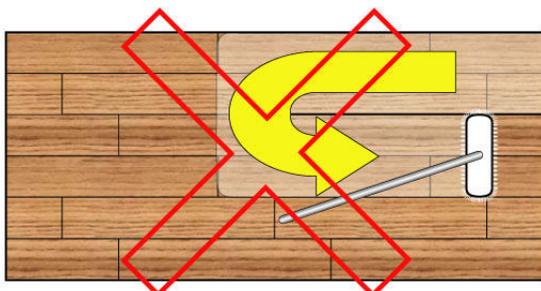
※撒き塗り厳禁！ ワックスを床面に直にこぼす事はしないで下さい。

必ずワックスタンクまたはトレイを使用して、モップにワックス液を補充する様にしてください。

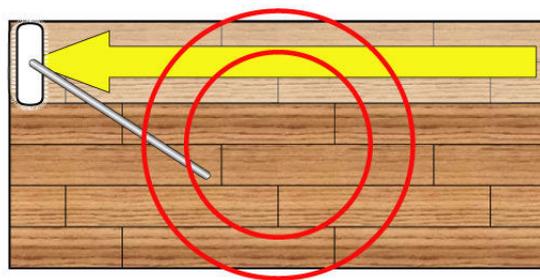
⑦『ハイテクフローリングコート』をモップに含ませて、薄く均一に塗り広げます。

ワックスを塗布する際は、目地の方向に沿って端から端まで一挙に塗布します。

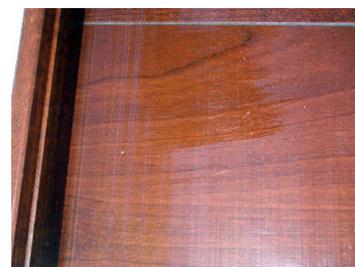
※巾木部分にはワックスが付かない様に注意して塗布してください。



途中で折り返したり、止めたりすると仕上がりに影響します。



壁際から反対の壁際まで一挙に塗布してしまいます。



洗剤分残留により発生した塗膜の白化

ワックスは、目地の流れに沿って塗布しますが、途中で止めたり、折り返したりするとその部分にワックスの重なりが生じて、ツヤムラを引き起こしたり、塗りムラを起こすことがあります。

※目地部分にワックス溜まりがあると床鳴りやフレの原因になることがありますので、ご注意ください。

⑧一通り塗り終わったら、5分程度自然乾燥させた後、送風機を使用して完全に乾燥させます。

※通常30分以上、雨天時や冬期中は45～60分以上が必要です。

冬期中、エアコン設備を利用できる場合には、予め25℃程度に設定し、室内を暖めておきます。設定は暖房にします。

ドライ設定にすると室内が暖まらず、乾燥も遅くなります。

エアコン設備がなく、床暖房設備を利用する場合には、あらかじめ床暖房設備を稼働させて床面を暖めておき、作業開始前にスイッチを切った状態で作業を行ってください。床暖房稼働状態でワックスを塗布すると乾きが早過ぎるため、塗りムラの原因になります。但し、ワックス塗布後に床暖房を一定時間稼働させる事は、乾燥硬化を早めるために効果的です。

また、暖房が利用できない場合は乾きが極端に遅くなり、仕上がりが不良の原因になりますので、送風機を水平またはやや上方に向けた状態で空気を循環させてください。

※ワックスを塗布する前の乾燥が不十分だと、飾り目地や接合部などに膨れを生じさせる原因となりますので、出来る限り長時間乾燥させる様にしてください。

冬期中や雨天時は、締め切った状態で自然乾燥させると、乾きが極端に遅くなるため床材の膨れや反り、ワックスの仕上がりが、性能に悪影響を及ぼします。

⑨必要に応じて、もう一度『ハイテクフローリングコート』を塗布します。

塗布前に、新しいダスタークロスを使用してダスターがけを行い、乾燥中に床面に落ちてきたホコリや糸くず、髪の毛などを除去します。

ワックスの塗布方法は⑦～⑧と同様です。

注意！

ワックスを塗布する際に、糸くずや髪の毛などが残っていると、引き渡し時のクレームとなります。ワックスを塗布する前には、十分に確認の上で塗布を開始してください。

ワックス塗布に使用するモップは、必ずワックス塗布専用の乾いたモップをご使用下さい。水で湿ったモップを使用すると、仕上がりに悪影響を及ぼします。

ダーク系など色調の濃い床材に光沢のあるワックスを塗布した場合、スリッパなどによる擦り傷が目立ちやすくなる事があります。この現象はワックスの性質上避けられないものですので、あらかじめご理解の上でワックスをご使用下さい。

気温が10℃以下の場合には、基本的にワックスの使用を避けるようにしてください。作業の日程上ワックスを使用しなければならない場合には、普段よりも極力薄くすれない程度に塗布(120 ml/L程度以上)を行ってください。この場合、上記⑧の乾燥上の注意点を参考にして、乾燥には細心の注意を払って下さい。足し塗りの必要がある場合には、日を改めて塗布を行ってください。

補足！ = 夏期の遮光対策について =

夏期の場合、床面の温度が高くなり過ぎている場合が多く、特に直射日光の当たる部位などでは50℃を超えてしまっている場合もあります。この様な状況でワックスを塗布した場合、モップの重なり部分がツヤの高い状態となったり、仕上がりが不良の原因になってしまいます。これらの不具合を解消するため、ワックス塗布時点の室温を30℃以下になるよう、室内換気や窓の遮光を行ってください。

床面の洗剤拭き、水拭きを始める前に、雨戸を閉めたりカーテンを貼るなどして遮光を行い、送風機を室外に向けて送風し、直射日光の当たる方角と反対側の冷えた空気を導入して室温を下げてください。この状態で洗剤拭き、水拭きを行うと温度低下には効果的です。

現状復帰作業手順 / 剥離作業**注意！**

ワックスの密着確保が困難なタイプであるため、使用するワックスは必ず『ハイテクフローリングコート』をご使用下さい。

このタイプの床は、通常の作業においては、床板中央に彫られた飾り溝(飾り目地)の部分や接合部において、フクレが生じる可能性は低いことが確認されています。

①床表面や目地部分に入った粗ゴミやホコリ、木屑などを掃除機で除塵します。

目地部分に入り込んだ汚れを除去しきれない場合には、竹串や竹へらなどを用いて掻き出しながら吸塵するなどしてください。

※化学雑巾または化学モップなどは絶対に使用しないでください!!

②作業を始める前に巾木や白木の敷居などに対し養生を行います。

築後間もない場合には、壁紙や巾木などの固着が安定していないため、強粘着の布テープ型養生シートを使用すると剥がれや傷みの原因となることもあります。紙テープ型の低粘着性養生シートを使用するか、あらかじめ低粘着性の紙テープを貼った上に布テープ型の養生シートを貼るようにしてください。

また、白木の敷居などに養生をする際も巾木や壁紙などと同じように、紙テープ型の低粘着性養生シートを使用してください。

※白木は剥離剤が付着した瞬間にアルカリ焼けを起こしますので、床面との境界部分から養生を確実に行ってください。

③はくり剤『オール床クリーナー』をモップに浸み込ませ、薄く均一に塗布します。

※目地や接合部、木口などの部分に多量に塗ると、シミや膨れなどの原因となることがありますので、十分に注意してください。

特に明色系の床材は洗剤類の浸透によるシミが目立ちやすいので、細心の注意をしてください。

※広い面積を一度に作業せず、約2畳分ずつの小面積に区切って**[剥離剤塗布→除去作業→水拭き→水拭き]**を行う様にしてください。

※化学床用のリンスフリー型強力はくり剤は絶対に使用しないでください。変色やシミ、膨れの原因となります。

④ワックスの溶解を待って、モップやパッドで除去します。

作業は、『オール床クリーナー』を塗布してから10分以内に回収出来るような作業の段取りを組んでください。

ワックスを塗布してから、あまり日数が経過していない場合には、2～3分程度で溶解しますので、モップやネットスポンジ等で擦るなどして迅速な作業を行ってください。

パッドを使用する場合には、研磨剤の極めて弱い**3Mプレバーニツシュパッド**などを使用してください。

※ポリッシャーを用いて作業を行う場合には、必ず3Mイエローオートスクラバーパッドを使用して作業を行ってください。

**⑤吸水バキュームで「はくり汚水」を直ちに回収します。**

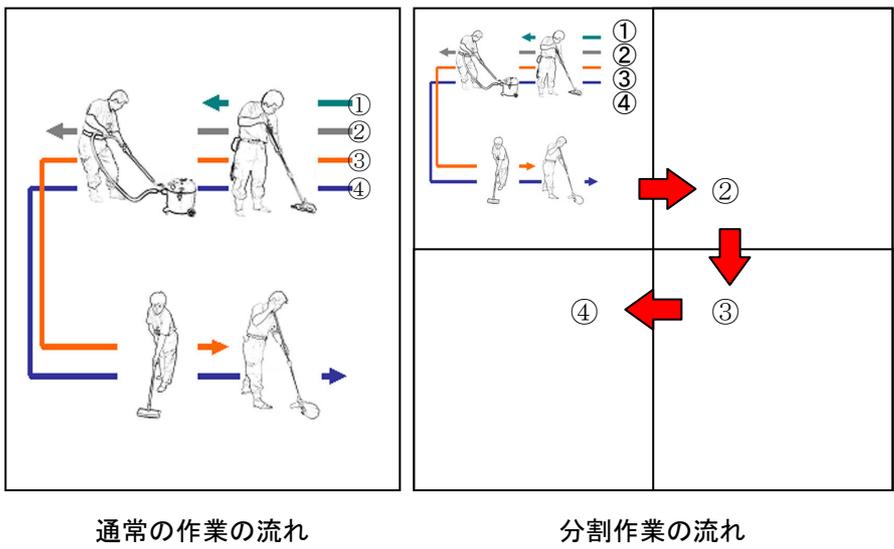
※吸水バキュームの用意が無い場合には、乾いたモップや固く絞ったモップで拭き取るようにして回収します。

⑥モップを変えて、固く絞ったモップで水拭きします。

※水拭きを確実に行わなければ、ワックスの密着に大きな影響を及ぼします。

⑦次の区画に対して、③～⑥の作業を行います。

※はくり剤や水分との接触時間を短くするため、必ず分割作業を実施する様にしてください。



分割作業は、小面積(約2畳程度)に区切った区域事に洗剤類の塗布→汚水回収までの一連の作業の流れを行う事を意味します。
この方法をとる事によって、床材への水分接触時間を短縮し、フローリングへの影響を回避する事が目的です。

⑧作業した部分全部に対しての水拭きを行います。

※最後の水拭きは、固く充分に絞ったモップを用いて、洗剤成分の残留がないようにしてください。

⑨送風機を使用するなどして、床面を完全に乾燥させます。

※通常30分以上、雨天時や冬期中は45分以上が必要です。
※冬期中、エアコンなどによる暖房が利用できる場合には、予め25℃程度に設定し、室内を暖めておきます。設定は暖房にします。ドライ設定にすると室内が暖まらず、乾燥も遅くなります。

※夏期は床面の温度が高くなっているため、塗りムラや仕上がりが不良の原因になりやすい状態になっています。

ワックスを塗るまでの間、雨戸を閉めたり、窓をカーテンで覆うなどの遮光措置を取った上で、室内の空気を入れ換える為の送風換気を行って、室温を下げた上でワックスを塗布するようにして下さい。
室内気温30℃程度を超える環境では、モップの重なり目が出やすくなるため、必ず室温を低下させてから塗布を行って下さい。どうしても塗る必要がある場合には、モップの重なり目となる部分が乾かない状態で塗れる様に迅速に塗布するか、モップの重なり目を極力作らないなどに注意して塗布を行って下さい。

⑩『ハイテクフローリングコート』を必要な量だけ専用トレイに入れます。

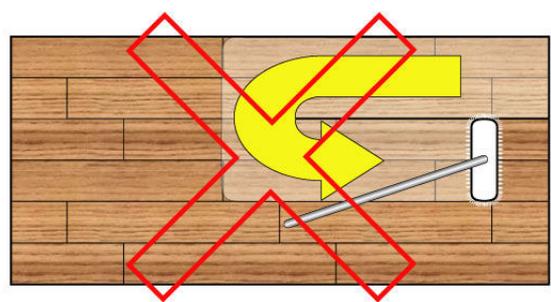
※撒き塗り厳禁！ ワックスを床面に直にこぼす事はしないで下さい。

必ずワックスタンクまたはトレイを使用して、モップにワックス液を補充する様にしてください。

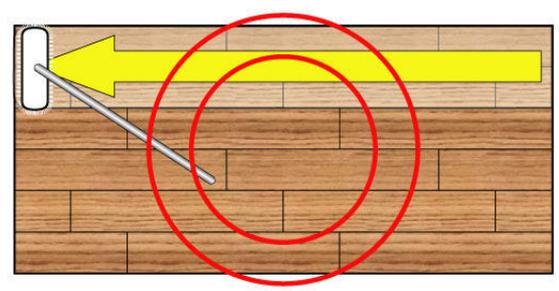
⑪『ハイテクフローリングコート』をモップに含ませて、薄く均一に塗り広げます。

ワックスを塗布する際は、目地の方向に沿って端から端まで一挙に塗布します。

※巾木部分にはワックスが付かない様に注意して塗布してください。



途中で折り返したり、止めたりすると仕上がりに影響します。



壁際から反対の壁際まで一挙に塗布してしまいます。

ワックスは、目地の流れに沿って塗布しますが、途中で止めたり、折り返したりするとその部分にワックスの重なりが生じて、ツヤムラを引き起こしたり、塗りムラを起こすことがあります。

※目地部分にワックス溜まりがあると床鳴りやフクレの原因になることがありますので、ご注意ください。

⑫一通り塗り終わったら、5分程度自然乾燥させた後、送風機を使用して完全に乾燥させます。

※通常30分以上、雨天時や冬期中は45～60分以上が必要です。

冬期中、エアコン設備を利用できる場合には、予め25℃程度に設定し、室内を暖めておきます。設定は暖房にします。

ドライ設定にすると室内が暖まらず、乾燥も遅くなります。

エアコン設備がなく、床暖房設備を利用する場合には、あらかじめ床暖房設備を稼働させて床面を暖めておき、作業開始前にスイッチを切った状態で作業を行ってください。床暖房稼働状態でワックスを塗布すると乾きが早過ぎるため、塗りムラの原因になります。但し、ワックス塗布後に床暖房を一定時間稼働させる事は、乾燥硬化を早めるために効果的です。

また、暖房が利用できない場合は乾きが極端に遅くなり、仕上がり不良の原因になりますので、送風機を水平またはやや上方に向けた状態で空気を循環させてください。

※ワックスを塗布する前の乾燥が不十分だと、飾り目地や接合部などに膨れを生じさせる原因となりますので、出来る限り長時間乾燥させる様にしてください。

冬期中や雨天時は、締め切った状態で自然乾燥させると、乾きが極端に遅くなるため床材の膨れや反り、ワックスの仕上がり、性能に悪影響を及ぼします!!

⑬必要に応じて、もう一度『ハイテクフローリングコート』を塗布します。

塗布前に、新しいダスタークロスを使用してダスターがけを行い、乾燥中に床面に落ちてきたホコリや糸くず、髪の毛などを除去します。

ワックスの塗布方法は⑩～⑫と同様です。

注意！

ワックスを塗布する際に、糸くずや髪の毛などが残っていると、引き渡し時のクレームとなります。ワックスを塗布する前には、十分に確認の上で塗布を開始してください。

ワックス塗布に使用するモップは、必ずワックス塗布専用の乾いたモップをご使用下さい。水で湿ったモップを使用すると、仕上がりに悪影響を及ぼします。

ダーク系など色調の濃い床材に光沢のあるワックスを塗布した場合、スリッパなどによる擦り傷が目立ちやすくなる事があります。この現象はワックスの性質上避けられないものですので、あらかじめご理解の上でワックスをご使用下さい。

気温が10℃以下の場合には、基本的にワックスの使用を避けるようにしてください。作業の日程上ワックスを使用しなければならない場合には、普段よりも極力薄くかすれない程度に塗布(120 ml/L程度以上)を行ってください。この場合、上記⑧の乾燥上の注意点を参考にして、乾燥には細心の注意を払って下さい。足し塗りの必要がある場合には、日を改めて塗布を行ってください。

補足！

床材の光沢が低いタイプの場合には、仕上がり光沢を考慮し『ハイテクフローリングコートつや消し40』または『ハイテクフローリングコートつや消し20』を使用することができます。

床材の光沢が20以下の場合には『ハイテクフローリングコートつや消し20』を、床材の光沢が25～40前後の場合には『ハイテクフローリングコートつや消し40』を用いると床材の風合いを損ないません。

但し、床面の光沢が50を超える場合や、床材の塗装状態・色調によっては白ボケなどが発生する可能性があるため、事前に確認を行ってから使用してください。